

大分空港を起点としたMaaS検討部会 第3回資料

～大分空港を起点とした**MaaS**の実証実験の検討について～

令和4年5月24日(火)

大分空港を起点としたMaaSの推進について

- **大分空港は、本県の空の玄関口であり、経済活動、観光振興、関係人口の増加など、本県の発展に欠かせない重要な交通基盤。**
- **ポストコロナにおける社会経済の再活性化、地方創生の加速を図るためには、今後増加する航空需要を確実に取り込み、大分空港を活性化させることが必要不可欠。**
- **そのためには、大分空港からの二次交通である空港アクセスバス、タクシー、レンタカー、また今後導入予定のホバークラフトなど、多様なニーズに対応できるように、これらの移動手段の利便性向上に向けた取組みが重要。**



大分空港を起点としたMaaSの導入を検討

MaaSとは

MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、

- 地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済を一括で行うサービス
- 手段としてスマホアプリ等を用いることが多い。
- 新たな移動手段（シェアサイクル等）や移動目的に関連したサービス（観光チケットの購入等）も組み合わせることが可能



地域が抱える課題の解決

新しい生活様式
への対応
(3密の回避等)

地域や観光地における
移動の利便性向上

既存公共交通の
有効活用

外出機会の創出と
地域活性化

スーパーシティ・
スマートシティの
実現

大分空港を起点としたMaaSの導入に向けた方向性

- 大分空港を起点としたMaaSの導入を検討するに当たっては、**空港直行アクセスのみではなく、国東、別府、大分等のエリアにおける利便性向上も含めて**、それぞれのモードごとにとり組む内容を検討することが必要。

■ 大分空港を起点とした複数の公共交通を最適に組み合わせ、検索・予約・決済までを一括で行うサービスの構築。

■ 交通機関だけでなく観光施設等の情報やサービスとの連携も見据えた取組も検討。



大分空港を起点としたMaaS実証実験のイメージ

■ 空港アクセスバス

(一例)

- ①いつでもどこでもアプリを使って乗車したい便のチケット購入可能
- ②スマホの画面提示により降車が可能
- ③混雑状況や購入状況等が閲覧可能

■ 路線バス

(一例)

- ①時間内乗り放題のタイムチケットの導入
- ②スマホ画面 (アクティブ状態) を提示することで、その間自由に乗降が可能
- ③おすすめの観光施設情報等と連携した情報発信や割引クーポンの付与等

■ タクシー

(一例)

- ①ワンアプリで、配車予約から決済まで一括で利用可能

大分空港を起点としたMaaS実証実験の方針

①シームレスな移動の実現

- ・ 1つのアプリで検索、予約、キャッシュレス決済、非接触による運用が可能
- ・ 大分空港を起点とした多様な交通モードとの連携
- ・ バスロケーションシステム等のリアルタイム情報と連携
- ・ 既存チケットのデジタル化

②観光・商業との連携

- ・ 観光や商業とタイアップした魅力的なデジタルチケットの造成
- ・ 観光情報やイベント情報をアプリ上で利用者に提供
- ・ 積極的なPRの実施

③インバウンド対策

- ・ インバウンドを視野に入れた英語、韓国語、中国語等多言語への対応
- ・ インバウンド向け観光商品の造成

④今後に繋がる分析

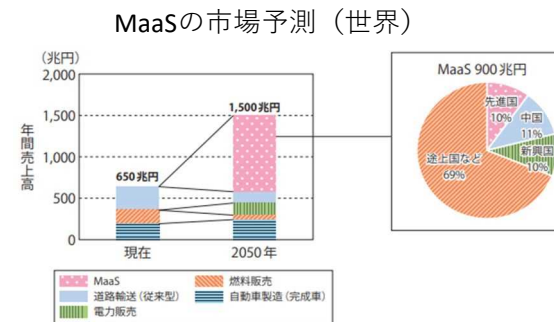
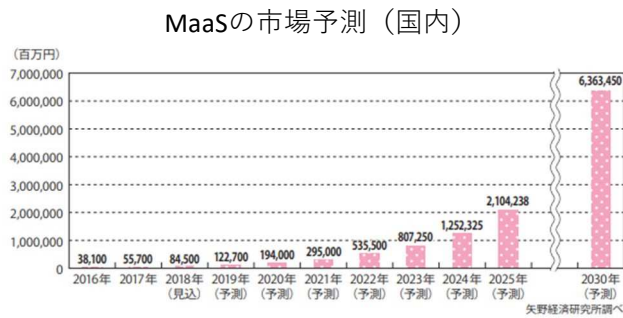
- ・ 実証事業後、事業者へのヒアリングや利用者アンケート等を実施
- ・ MaaS導入にあたってのメリット・デメリットの分析

大分空港を起点としたMaaSの今後の展開

⑤実証実験後のMaaSの展開

●MaaSの市場予測

世界各地でMaaSの動きが活発化している。今後、MaaSの市場規模は急速に拡大していくと考えられており、2030年には国内市場が**約6兆円**、2050年までには世界市場が**約900兆円**にまで拡大するとの調査結果もある。



【出典】国土交通省「国土交通白書2020」

大分県内でMaaSが発展していくことで、マイカー依存からの脱却、公共交通機関の活性化、渋滞の緩和、カーボンニュートラル、交通弱者の移動手段の確保といった地域の課題解決に繋がる。

●今後の検討事項

- ・ 対応する交通モードやサービスの拡大
- ・ 県内全域への広域展開及び隣県との連携
- ・ API連携システムの活用

空港MaaSから大分県版地方創生の実現へ！

空港MaaS実証実験に向けたスケジュール(案)

